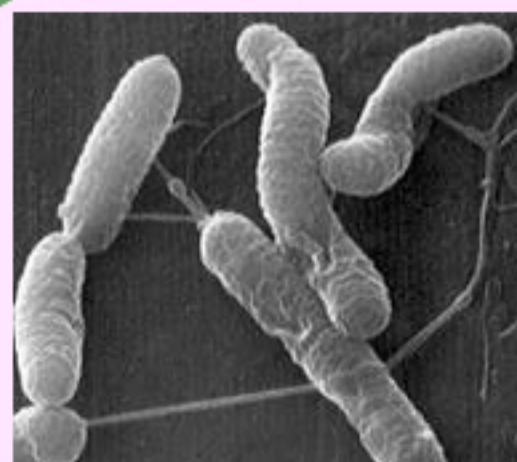


ピロリ菌 除菌について

当医院では、ピロリ菌感染の有無をみる検査から、ピロリ菌陽性の場合の除菌治療(ピロリ菌を死滅させる治療)まで、一貫して自院で行っています。さらに、除菌治療が成功しなかった場合の二次除菌療法までも行っています。

▶ピロリ菌について



ピロリ菌

ヘリコバクター・ピロリ菌(Helicobacter pylori)は、胃・十二指腸の粘膜に存在する細菌です。2〜3×0.45μmの大きさのらせん状をした細菌で、左図のように4〜8本のしっぽがあります。ヘリコバクターの『ヘリコ』は、らせん形(ヘリコイド helicoid)から命名されており、ヘリコバクターの『ヘリコ』と意味は同じです。

胃のような強酸性の環境下では、ほとんどの生物は生存できないと考えられていましたが、1983年、オーストラリアのロビン・ウォレンとバリー・マーシャルという医師がヒトの胃から、らせん状の菌を分離培養することに成功し、ピロリ菌が胃の中に生息していることを報告しました。

ピロリ菌が胃・十二指腸に存在すると慢性胃炎・胃潰瘍・十二指腸潰瘍の原因になったり胃がんを起しやすくする原因となることが知られています。

細菌の研究ではピロリ菌を除菌することによって、胃・十二指腸潰瘍の再発を予防したり、将来の胃がんの発生率が下がることが知られるようになってきました。

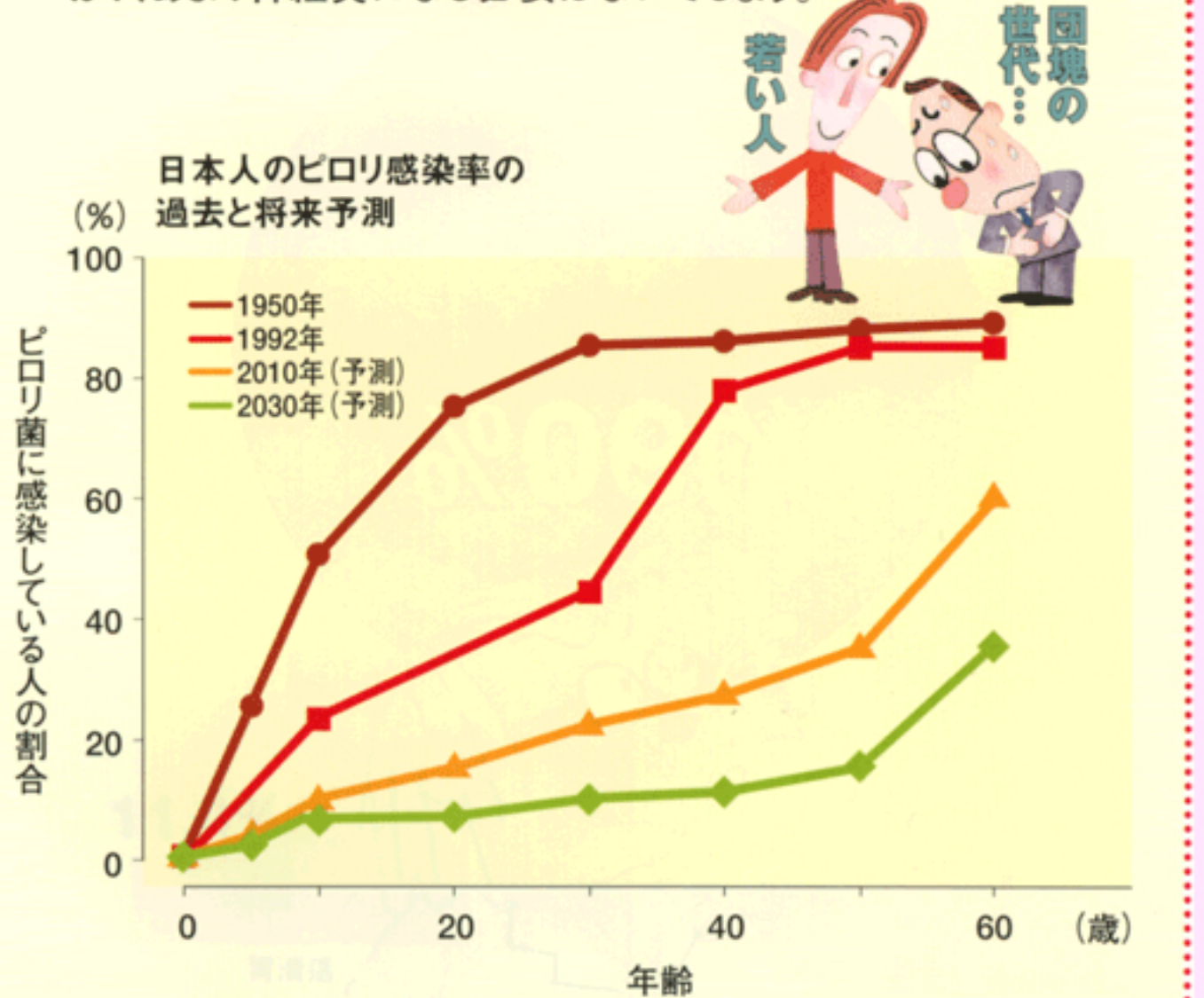
▶ピロリ菌はどのようにして感染するのか？

感染経路は、まだはっきりと判っていませんが、口を介した感染(経口感染)が大部分であろうと考えられています。

また、ピロリ菌の感染率は、衛生環境と関係していると考えられており、上下水道が十分に普及していなかった世代の人で高い感染率となっています。

感染を予防する方法はありますか？

- 我が国のピロリ菌感染率は、上下水道が十分完備されていなかった時代に生まれた団塊の世代以前の人では約80%前後と高いのですが、若い世代の感染率は年々低くなり、10代、20代では欧米とほとんど変わらなくなってきました。
- 衛生環境が整った現代では、ピロリ菌の感染率は著しく低下しており、あまり神経質になる必要はないでしょう。



▶ピロリ菌を除菌すると、どうなるのですか？

胃・十二指腸潰瘍の患者さんは、ピロリ菌に感染していることが多く、潰瘍の発生、さらに再発や治りにくさに、ピロリ菌が関係していることが判っています。

これまで胃潰瘍や十二指腸潰瘍は再発しやすく、再発するたびに治療が必要なやっかいな病気と考えられていました。

胃潰瘍や十二指腸潰瘍の人がピロリ菌に感染している場合、除菌療法を行う事によって完全というわけではありませんが、大部分の潰瘍の再発が抑制されることが判ってきました。

▶ピロリ菌の除菌療法とは？

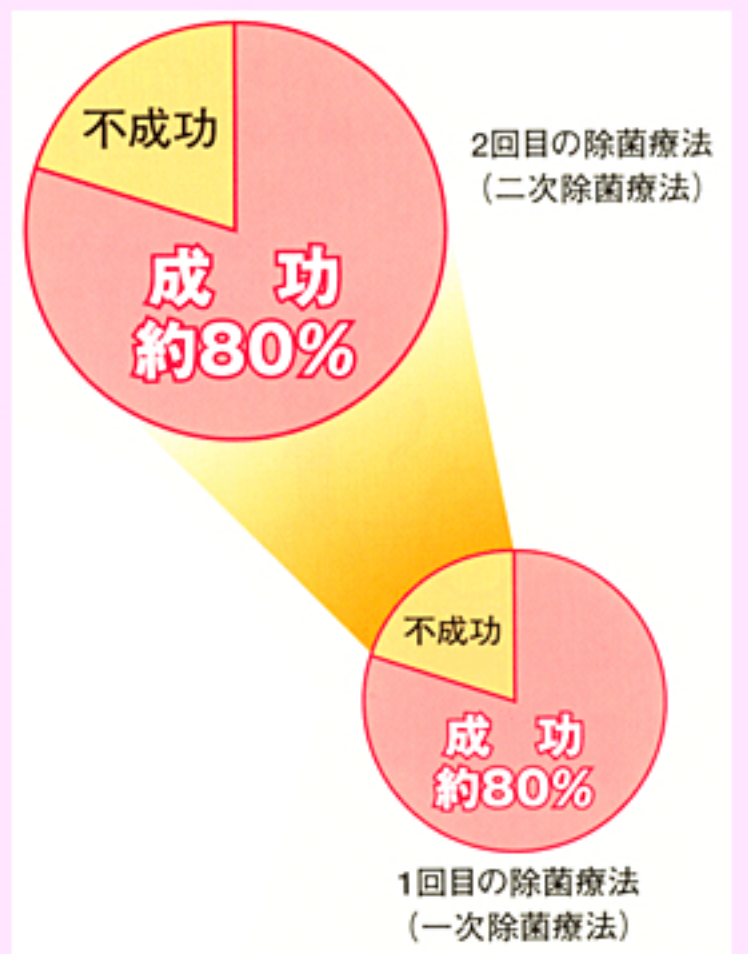
胃潰瘍・十二指腸潰瘍の患者さんに対して検査を行い、ピロリ菌がいることを確かめてから治療を行います。

ピロリ菌の除菌療法とは、2種類の「抗菌薬」と「胃酸の分泌を抑える薬」の合計3剤を同時に1日2回、7日間服用する治療法です。

すべての治療が終了した後、4週間以上経過してから、ピロリ菌が除去できたかどうか、もう一度検査する必要があります。
※上記検査は、必ず受けるようにしてください。

正しくお薬を服用すれば、1回目の除菌療法は約80%の確率で成功します。

1回目の除菌療法でピロリ菌を除菌できなかった場合は、2種類の抗菌薬のうち一つを初回とは別の薬に変えて、再び除菌療法を行います。この方法で行うと、2回目の除菌療法は約80%を超える確率で成功します。



▶除菌療法の副作用について

○これまでに除菌療法の主な副作用として以下の事柄が報告されています。

- 1) 軟便、下痢
便がゆるくなったり、下痢を起こしたりすることがあります。
- 2) 味覚異常
食べ物の味をおかしいと感じたり、苦い味や金属のような味を感じたりすることがあります。
- 3) AST(GOT)の変動、ALT(GTP)の変動
肝臓の機能を表す検査値が変動することがあります。

○軟便や下痢、あるいは味覚異常が起こった場合には、症状に応じて次のように対処してください。

- ・軟便、軽い下痢または味覚異常の場合
自分の判断で、服用する量や回数を減らしたりせずに、残りの薬を最後まで(7日間)服用続けてください。ただし、服用を続けているうちに下痢や味覚異常がひどくなった場合には、我慢せず当医院に相談してください。
- ・発熱、腹痛を伴う下痢、あるいは便に血が混ざっている場合
このような場合には直ちに薬の服用を中止して、当医院に連絡を下さい。

○その他、気になる症状を感じた場合には、自分の判断で服用を中止するのではなく、当医院に相談してください。

▶ピロリ菌の検査について

当医院では、内視鏡(胃カメラ)を使わない簡単に行える検査法として、尿素呼気試験を行っています。

尿素呼気試験:

検査用のお薬を飲み、一定時間経過した後に、吐き出された息(呼気)を調べて、ピロリ菌に感染しているかどうかを判定します。

※苦痛も無く簡単に行える検査です。

除菌療法の成功の判定にも、この検査法を用います。

